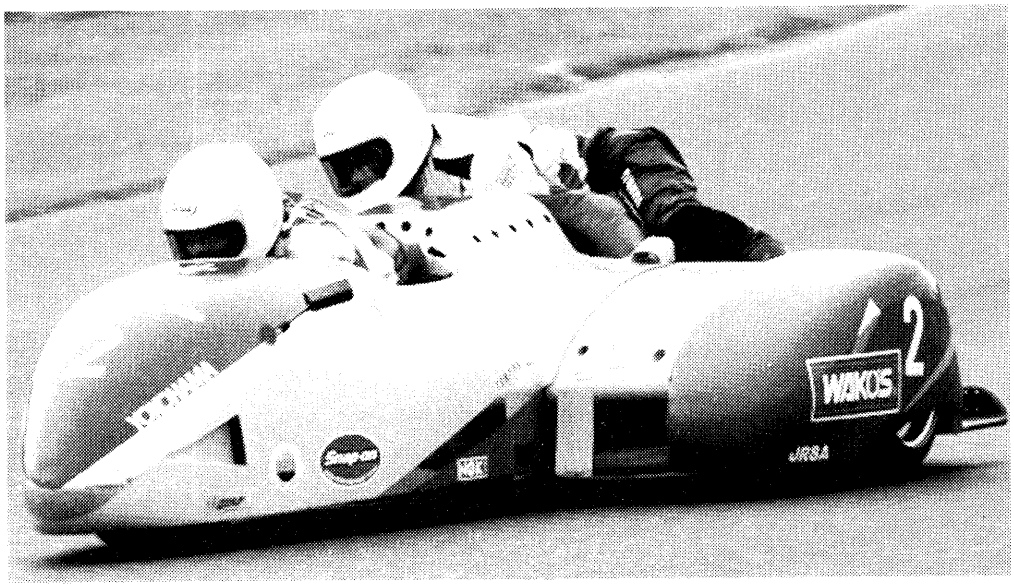
新聞
（新聞定価消費税込み1カ月2900円・1部売り100円）
（第3種郵便物認可）

夢のマン島レースへ

サイドカー部門 30年ぶり邦人2組目

熊谷市玉井の測量会社経営渡辺正人さん（42）は、5月下旬からイギリス領マン島で開催される国際サイドカーレースに、ドライバーとして出場する。今年で100周年の歴史ある大会に挑戦する日本人は30年ぶり、2組目という。夢の舞台に臨む渡辺さんは「ワクワクした気持ち、毎日が楽しくて仕方がない」と胸を躍らせている。（高山展保）

渡辺正人さん



レース中の渡辺正人さん（左）。コーナーでは、運転席の左側後部の側車に乗るパッセンジャー（右）が身を乗り出すようにして車体のバランスを取る（渡辺さん提供）

マン島は、アイリッシュ海に浮かぶイギリスの自治領。五月から六月にかけて行われるTT（ツーリスト・トロフィー）レースは一九〇七年に始まった世界最大の公道レースとして知られる。

渡辺さんがサイドカーレースを始めたのは八年前。知り合いのバイク店から勧められ、レース観戦に行って「そのままはまってしまった」。

もともとバイク好き。サイドカーの街乗りもしていたが、レース仕様のマシンはまったく勝手が違った。難しいのがコーナリング。運転席と側車（プラットホーム）一体型の車体は、右へ曲がろうとすると左へ飛ばされそうになる。側車に乗るパッセンジャーは常に重心を移動させバランスを取らなければならず、ドライバーとの息の合わせ方が大事という。

だが渡辺さんには、この強烈なクセが魅力だ。低い視線で「頭からコーナーに突っ込むスピード感」もたまらない。二〇〇〇年八月にはレース前の練習中に転倒、二カ月の重傷を負った。妻の桂子さん（四四）からは「レースをやめないと離婚する」と迫られたが、「お前よりオートバイの方が付き合いが長い、とごまかした」。今では家族は心強い。二月からは調整のためヨーロッパ各地で行われるレースに参戦。五月十三日にマン島入りする予定だ。

熊谷の渡辺さん5月に挑戦

コーナリングが魅力

お手上げという。

〇五年の全日本選手権で初優勝。あこがれだったマン島TTレース出場が、現実的なものに思えてきた。昨年の大会を現地で観戦、主催者に打診し、十二月に入り正式な出場許可をもらった。

首都ダグラスの市街地から一周約六十㌔を三周し、タイムを競う。公道を使うため、コースから飛び出せば石垣に激突してしまう個所も。渡辺さんは「まずは完走、予選通過が目標」と話す。

現在、スイスで新しいマシンを製造中。パッセンジャーの吉田秀幸さん（三八）＝和歌山市在住＝も「やる気満々」という。

七六年大会に日本人で初めて出場したドイツ在住の熊野正人さんがマネジャーを務めてくれるのも心強い。二月からは調整のためヨーロッパ各地で行われるレースに参戦。五月十三日にマン島入りする予定だ。

痴漢の現
会社員を

新座署は
惑行為防止条
漢）の現行犯
野市沢三
の男（四三）を逮
調べによる
六日午前七時
ろ、東武東上
―志木駅間を
い通勤急行電
市の女子高校
をスカート

埼玉

茨城県坂
上手で男性
上半身が十
い、埼玉県

坂東市・矢
遺体で見つ
似顔絵

芥川賞候補になってい
員室で十数人の先生が待
の言葉が残る。保坂教諭
に集中し、
に伸びた